

# (案)

## 北部広域ソフト事業補助金 想定事業 (北部広域環境保全活動補助事業 想定事業)

### 1. 花いっぱい運動等の活動

地域の公園、学校、図書館、公民館、道路植栽帯など、公共性の高い施設などにおける花いっぱい運動など、環境美化につながる活動。



**今帰仁城に花をクワンソウ寄贈**  
【今帰仁】クワンソウの栽培・収穫・1次加工販売・クワンソウ関連商品開発・販売を行う、同村上運天の眠り草本舗

(座間味栄大代表)が5月27日、今帰仁村グスク交流センターを管理する沖縄文化スポーツインベーシヨントピックの原田健太指定管理者に写真右側にクワンソウの苗を寄贈した。  
今帰仁城跡の内外は方ンヒザクラやテッポウユリなど四季折々の花々が楽しめる。クワンソウは28日に同センター前ロータリー土手周辺に植え付けされた。旧盆過ぎから10月にかけて鮮やかなオレンジ色の花が咲く。原田管理者は「新たな今帰仁城跡の見どころになるように真心を込めて育てたい」と笑顔でコメントした。(新城孝博通信員)  
令和4年6月3日(金) 琉球新報

### 2. 赤土流出防止等の活動

三和土を使った赤土対策、ベチバー植栽による赤土対策など、赤土流出防止に取り組むことによって海洋環境の改善につながる活動。



畑から採取した土と消石灰などを混ぜ合わせ「三和土」を作成する高校生ら＝5月28日、東村(イオン環境財団提供)

### 東村 辺土名高、北農生と実践

今回は、赤土流出で農業などに被害が出る東村で、畑から土を採取して三和土を作成し、畑の境界に設置した。名久井農業高3年の佐々木昌虎さん(17)は「三和土を通ると水の濁りが軽減することなどが確認できた。三和土に植物を植えるなど他の技術と併せることで流出の抑制が期待できる」と語った。

設置した三和土はその後、辺土名高の生徒が効果などを観察する。同校2年の吉本蓮侍さん(16)は「三和土が畑や周辺環境に与える影響を調べたい」と話した。

西日は東村海域でモスク養殖を営む桐原永夫さん(45)も高校生の取り組みを観察した。昨年は赤土流出のためモスクが全滅したという桐原さんは「三和土の活用は、赤土流出の防止につながるのではないか」と期待した。(岩切美穂)

令和4年6月3日(金) 琉球新報

### 青森の名久井農業高生

高校生のエコ活動を顕る日本の伝統工法。農流出を抑制する。名久井農業高は2020年度、同コンテストの環境大臣賞を受賞した。

## 三和土使い 赤土対策

### 3. タイワンハブ駆除等の活動

急速に生息域を拡大するタイワンハブの駆除活動をとおしてやんばるの自然生態系を維持することにつながる活動。

# 東・大宜味でも確認

## 19・21年、遺産登録地外

### タイワンハブ



大宜味村津波で発見されたタイワンハブの死がい＝2021年12月8日、大宜味村（村提供）

【北部】在来の生態系を脅かす特定外来生物の毒ヘビ「タイワンハブ」が本島やんばるの東村と大宜味村で確認されていたことが5日までに分かった。両村には世界自然遺産登録地があるが、確認場所はいずれも遺産登録地外で、定着は確認されていない。

### 定着阻止へ対策強化



東村では2010年11月に有銘で住民が1匹を捕獲し、村役場が死骸を確保。大宜味村では21年12月に津波でロードキルに遭ったとみられる死骸を村が確認した。タイワンハブは本部半島周辺に定着し、捕獲数も集中している。生態系の上位捕食者であることから、遺産登録地内で定着した場合、やんばるの希少固有種が捕食され、生態系に大きな被害をもたらす可能性が大きいことが指摘されている。やんばるの3村と県、環

東村では2010年11月に有銘で住民が1匹を捕獲し、村役場が死骸を確保。大宜味村では21年12月に津波でロードキルに遭ったとみられる死骸を村が確認した。タイワンハブは本部半島周辺に定着し、捕獲数も集中している。生態系の上位捕食者であることから、遺産登録地内で定着した場合、やんばるの希少固有種が捕食され、生態系に大きな被害をもたらす可能性が大きいことが指摘されている。やんばるの3村と県、環

## タイワンハブ

## タイワンハブ

### 地域広げ捕獲器設置へ

在来の生態系を脅かす特定外来生物の毒ヘビ「タイワンハブ」が世界自然遺産登録地のある大宜味、東の両村で確認されていたことを受け、同じく登録地の広がる国頭村を含むやんばるの3村と県、環境省は遺産登録地内での定着を阻止すべく、協力して対策を強化している。環境省は2020年度に防除計画を策定し、21年度から対策を強化している。21年11月には、名護市北西部と大宜味村南部で住民から目撃情報を募った。その情報に基づき、21年12月～22年3月、大宜味と名護に捕獲器計480個を仕掛けられた。結果、大宜味では捕獲されなかったが、名護では3匹

### 環境省・県・北部3村 防止柵改良も

捕獲された。22年度は、住民から目撃情報の収集を継続し、市町村と情報を共有しながら、仕掛けの捕獲器を増やし、地域も拡大していく。また、マングーアス北上防止柵を改良し、タイワンハブ対策に活用できないか検討している。繁殖を伴う生息状況が見つかれば「定着」とされる。環境省やんばる自然保護官事務所は遺産登録地内での定着は確認されていないとしつつ「定着すれば、やんばるの希少固有種に甚大な被害を及ぼす可能性が大きい」と警戒。「県、市町村と連携し、より積極的な対策を行っていく」とした。（長嶺寛太郎、安里周悟）



識者談話  
西村 昌彦さん  
（ヘビ対策ポランティア・元環境省環境研究所ハブ研究室長）

### 「刺し網」活用効果的

ハブはネズミなど小型 また、ハブと比べて体がほ乳類を主な餌にしてい 小さいため、餌を多く必要とする。タイワンハブは小 要としないことが可能性 型ほ乳類のほか、は虫 として考えられる。ただ 類、両生類も捕食する。 生態がよく分かっている 木にも登るため鳥類が補 いのので、より詳しい研究 食される可能性もある。 が待たれる。 タイワンハブが高密度 県が検討しているよう 化するの、ハブと比べ くに、マングーアス北上防止 柵を改良し、タイワンハ 刺し網はハブの生息域を狭くし、餌の確保を難しくしている。捕獲器と比べると導入、運用コストは大きく低減できる。タイワンハブを含めヘビはいったん定着すると、捕獲器だけでは密度化するのには難しい。世界自然遺産登録地内での定着を阻止し、やんばるの希少固有種を保護するために市町村、県、国はさまざまな手段を尽くしてほしい。